

米国金融政策（2025年5月FOMC）

政策金利の据え置きを決定

2025年5月8日

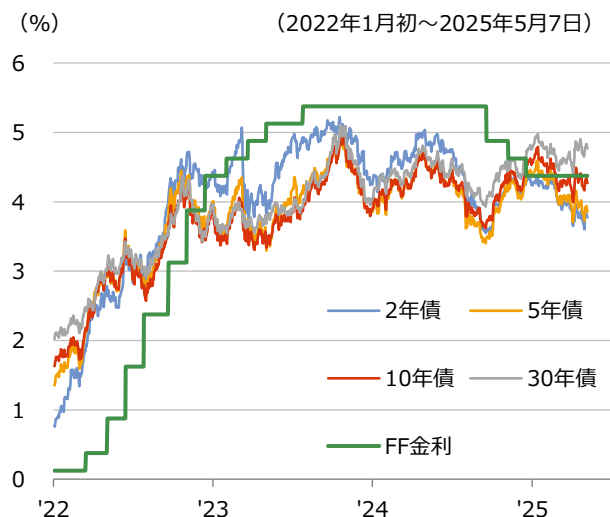
不透明感が強まっている状況で追加利下げを急がず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は5月6日～7日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%で据え置くことを決定しました。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額50億米ドル、住宅ローン担保证券で月額350億米ドルとの方針も維持しました。

声明文は「経済見通しを巡る不透明感が一段と高まっている」とした上で、「失業の増加とインフレ加速のリスクが上昇した」と指摘し、FRBが相反する目標に直面するジレンマを滲ませています。パウエル議長は「状況が明確になるのを待つ間、政策金利は適切な水準にある」と述べ、「政策調整を急ぐ必要はない」と従来の政策スタンスを踏襲しました。ただし、「状況が変化すれば必要に応じて迅速に対応できる」とも発言し、辛抱強さと同時に躊躇なく行動する姿勢が見られます。

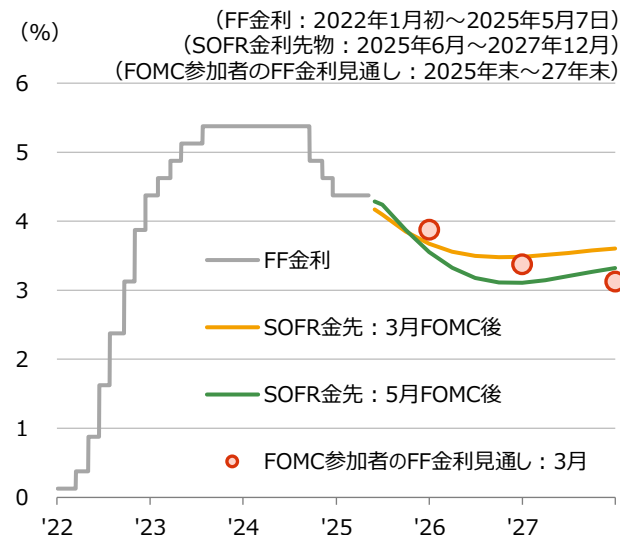
今回のFOMCは概ね事前に想定されていた結果となり、金融市場の反応は総じて限定的でした。FF金利先物によれば、次回の利下げは7月の可能性が高く、年内3回超の利下げが引き続き織り込まれています。相互関税の上乗せ部分の発動が7月9日まで一時停止されている中、目先の焦点はトランプ政権と各国の通商交渉の行方です。パウエル議長は「関税が維持されれば目標への進展は今年ないだろう」と述べており、多くの国と合意がまとまれば通商政策に伴う失業率およびインフレの上昇リスクは後退へ向かいます。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management